

文部科学省 学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業

“晴れの舞台”で働く特別な体験を通じて学び、社会で自立して生活できる力を身につける
生涯学習プログラムの地域システム化と、全国普及の促進

社会生活力学習度 アンケート調査・検証結果



アンケートの調査方法

■ 期間

2022年4月6日 - 2023年2月28日

■ 対象

～川崎市～

- ① プログラムに参加者した福祉事業所の参加者様
- ② プログラムに同行・見学参加した福祉事業所の支援員様
～その他地域～
- ③ プログラムに参加者した福祉事業所の参加者様
- ④ プログラムに同行・見学参加した福祉事業所の支援員様

■ 実施方法

就労体験プログラム参加後、翌日以降にアンケートに回答

■ アンケート内容

スポーツやエンターテインメントのワクワク・ドキドキするような“晴れの舞台”において、“働く”“他者と関わる”という体験を通じて学び、社会の中で混ざりあいながら様々な経験を重ねることは、自らの新たな可能性を伸ばし、自立した豊かな人生を送るために必要な“社会生活力”を身につけるきっかけとなる。

この仮説を元に参考指標として、特別支援学校、福祉事業所、社会教育の現場等で活用されている、障害のある人が自立し豊かな生活を送る力“社会生活力”を高めるためのトータルプログラム・マニュアル「自立を支援する社会生活力プログラム」のモジュールに沿って内容を構築。

プログラム参加「前・当日・後」で、それぞれどのような学びがあったのかを調査・検証した。

※アンケート詳細は次ページ



「自立を支援する社会生活力プログラム・マニュアル」
中央法規出版(2006/04)
(著)奥野 英子, 佐々木 葉子, 興梠 理, 関口 恵美, 大場 龍男

第1部 生活の基礎をつくる

- モジュール1 健康管理
- モジュール2 食生活
- モジュール3 セルフケア
- モジュール4 時間管理
- モジュール5 安全・危機管理

第2部 自分の生活をつくる

- モジュール6 金銭管理
- モジュール7 住まい
- モジュール8 そうじ・整理
- モジュール9 買い物
- モジュール10 衣類管理

第3部 自分らしく生きる

- モジュール11 自分と障害の理解
- モジュール12 コミュニケーション
と人間関係
- モジュール13 男女交際と性
- モジュール14 結婚
- モジュール15 育児

第4部 社会参加する

- モジュール16 情報
- モジュール17 外出
- モジュール18 働く
- モジュール19 余暇
- モジュール20 社会参加

< 就労体験プログラム参加者用 >

就労体験アンケート



以下の項目について、アンケートに御協力をお願いします。

質問	答え（該当するところに○をつけてください）
参加した就労体験の日付を記入をお願いします	月 日
(1) あなたの年齢を教えてください。	年代 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代
(2) あなたの就労経験の有無を教えてください	A. 企業就労経験：あり（ 年） なし B. 福祉事業所就労経験：あり なし
(3) あなたの障害の有無について教えてください。障害のある方は○をつけてください。※精神障害のある方は、疾患名についても可能な限りお答え願います。	1. 障害なし 2. 障害あり ・障害者手帳は所持していない ・身体障害（知的障害（B2 B1 A2 A1）精神障害（3級 2級 1級）→主な疾患名（ ）） ・発達障害 高次脳機能障害 難病
(4) ビープデザイン就労体験企画の参加経験回数を教えてください。	初めて 2～5回目 5～10回目 11回目以上 20回以上
(5) 今回はなぜ参加しようと思いましたか？	
(6) 当日どんな仕事をしましたか？	
(7) 就労体験に参加する前日、気をつけたこと、やってみたことはありますか？（当てるはまるものすべてに○）	1. 早寝・早起き 2. 当日持参する飲食物の準備 3. お風呂に入る、爪を切る歯を磨くなど身だしなみを整えた 4. 電車やバスの時間を調べた 5. 心配や不安なことを誰かに相談した 6. もらったお金をどうするか考えた 8. 持ち物などを準備・整理した 9. 日用品・洋服など必要なものを購入した 10. 着ていく服を準備した 16. 天気予報や行く場所などを調べた 17. 交通費などお金を準備した 17. 就労体験のついでに、行きたい場所などを考えた 18. 就労体験でどんな仕事をするか考えてみた
(8) 就労体験当日、気をつけたこと、やってみたことはありますか？（当てるはまるものすべてに○をつけてください）	1. 体調管理 1. 休憩時間を大切に 2. 食事の取り方 3. 身だしなみ 4. 時間に遅れないように気をつけた 5. 仕事中の安全や危険に気をつけた 6. お金や貴重品の管理 8. そうじ・整理整頓 9. 自分の得意なことや苦手なことを考えた 10. 服装 11. 自分の障害について誰かに話したり、サポートをお願いした 11. 自信を持ってやってみた 12. いろいろな情報を得る努力をした 12. 自分からあいさつしたり、コミュニケーションをとるようにした 16. 事前に調べたことを活かした 18. 楽しく働くようにした 18. 態度や姿勢に気をつけた
(9) 就労体験を経験してから、気をつけるようになったこと、チャレンジしてみたことはありますか？（当てるはまるものすべてに○をつけてください）	1. 体調管理 1. 睡眠時間 2. 食生活 3. 身だしなみ（清潔にする） 4. 時間の管理 5. 通勤中や仕事中の安全や危険について 6. お金の管理（貯める、使い方など） 7. 住んでる家について（引越・模様替えなど） 8. 家のそうじ、ゴミ出し 9. 買い物の計画 10. 洋服について（洗濯、お手入れ、購入など） 11. 自分の性格・生活・障害への理解 12. あいさつや他人とのコミュニケーションの大切さ 16. 情報を調べる・利用する 17. 外出の大切さ 18. 働く意味 18. 仕事の種類 19. 休みの日の過ごし方 20. 自分がこれからやりたいこと（趣味・仕事など）を考える 20. 社会に参加すること
(10) 今回の体験は、自分の自信となりましたか？	1 とてもそう思う 2 そう思う 3 あまり思わない 4 全く思わない
(11) 今回の就労体験を経験してみて、他の仕事にチャレンジしてみたいと思いましたか？	1 とてもそう思う 2 そう思う 3 あまり思わない 4 全く思わない
(12) 就労体験に参加して、学んだこと、勉強になったことがあれば教えてください。	
(13) 就労体験に参加して、自分の中で変わってきたことや、意識していること、気づいたことなどはありますか？	
(14) その他、感想や伝えたいことがあればご記載ください（自由記述）	

< 同行した支援員様用 >

アンケート（支援者用）



アンケートに御協力をお願いします。いただいた内容は、本企画の検討以外には使用いたしません。利用者さん個々で異なると思いますが、全体を通しての御意見で御回答をいただければと存じます。

質問	答え（該当するところに○をつけてください）
参加した就労体験の日付を記入をお願いします	月 日
(1) 今回、参加された支援をしている方（利用者さん）の主な状態像を教えてください。	1 社会に出ていきつかけを作っているかと思われているところ 2 企業就労に向けて事業所に通い始めたところ 3 企業就労を具体的に目指して活動しているところ 4 その他（ ）
(2) 今回、利用者さんを参加させようと思った動機・目的は何ですか？（自由記述）	
(3) 就労体験に参加する前日、右の中から利用者さんが気をつけていたことがあれば教えてください。（当てるはまるものすべてに○）	1. 早寝・早起き 2. 当日持参する飲食物の準備 3. お風呂に入る、爪を切る歯を磨くなど身だしなみを整えた 4. 電車やバスの時間を調べた 5. 心配や不安なことを誰かに相談した 6. もらったお金をどうするか考えた 8. 持ち物などを準備・整理した 9. 日用品・洋服など必要なものを購入した 10. 着ていく服を準備した 16. 天気予報や行く場所などを調べた 17. 交通費などお金を準備した 17. 就労体験のついでに、行きたい場所などを考えた 18. 就労体験でどんな仕事をするか考えてみた
(4) 就労体験当日、右の中から利用者さんが気をつけていたこと、チャレンジしていたことはありますか？（当てるはまるものすべてに○をつけてください）	1. 体調管理 1. 休憩時間を大切に 2. 食事の取り方 3. 身だしなみ 4. 時間に遅れないように気をつけた 5. 仕事中の安全や危険に気をつけた 6. お金や貴重品の管理 8. そうじ・整理整頓 9. 自分の得意なことや苦手なことを考えた 10. 服装 11. 自分の障害について誰かに話したり、サポートをお願いした 11. 自信を持ってやってみた 12. いろいろな情報を得る努力をした 12. 自分からあいさつしたり、コミュニケーションをとるようにした 16. 事前に調べたことを活かした 18. 楽しく働くようにした 18. 態度や姿勢に気をつけた
(5) 利用者さんが就労体験を経験してから、気をつけるようになったこと、チャレンジするようになったことはありますか？（当てるはまるものすべてに○をつけてください）	1. 体調管理 1. 睡眠時間 2. 食生活 3. 身だしなみ（清潔にする） 4. 時間の管理 5. 通勤中や仕事中の安全や危険について 6. お金の管理（貯める、使い方など） 7. 住んでる家について（引越・模様替えなど） 8. 家のそうじ、ゴミ出し 9. 買い物の計画 10. 洋服について（洗濯、お手入れ、購入など） 11. 自分の性格・生活・障害への理解 12. あいさつや他人とのコミュニケーションの大切さ 16. 情報を調べる・利用する 17. 外出の大切さ 18. 働く意味 18. 仕事の種類 19. 休みの日の過ごし方 20. 自分がこれからやりたいこと（趣味・仕事など）を考える 20. 社会に参加すること
(6) 通常（日常）の支援とは別に、今回の就労体験は利用者さんへどういった学びがあると感じましたか（自由記述）	
(7) その他、感想や伝えたいことがあれば御記載ください（自由記述）	

当プログラムが寄与する学びの領域

自立を支援する社会生活力プログラム (SFA II) のモジュールに照らし合わせた学び

健康管理 (モジュール1)

食生活 (モジュール2)

セルフケア (モジュール3)

時間管理 (モジュール4)

安全・危機管理
(モジュール5)

金銭管理 (モジュール6)

住まい (モジュール7)

そうじ・整理 (モジュール8)

買い物 (モジュール9)

衣類管理 (モジュール10)

自分と障害の理解
(モジュール11)

コミュニケーションと人間関係
(モジュール12)

情報 (モジュール16)

外出 (モジュール17)

余暇 (モジュール19)

社会参加 (モジュール20)

働く (モジュール18)

STEP 4 仕事の応用

働く
(正規就労・アルバイト)
継続して働く (定着)

STEP 3 仕事の基礎

働くこと・自分・職業・仕事
を知り理解する

STEP 2 社会

社会に出る・人と関わる

STEP 1 生活

自己管理
ライフサイクルの確立

学校から社会の移行期
自立に向けた生涯の各ライフステージ

就労定着が困難な場合でも新しく見出せる働き方

社会生活力

(Social Function Ability)

アンケート調査・検証結果①

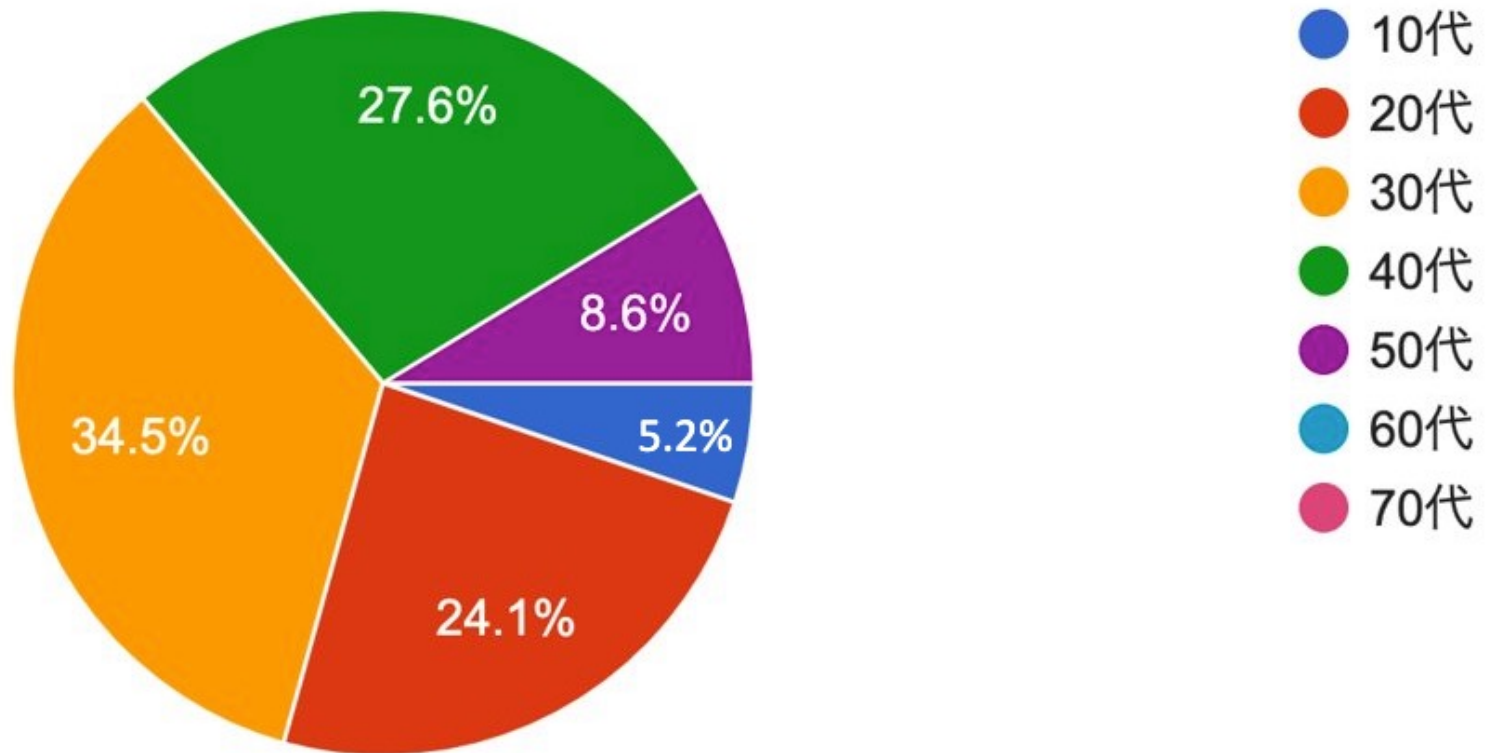
プログラムに参加した川崎市内福祉事業所
参加者様のアンケート結果（有効回答数：59名）

アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所 参加者様アンケート結果（有効回答数：59名）

< 年代 >

- 10代から50代までと、参加者の年齢層は幅広い
- 20～30代の世代が全体の5割を占めている。



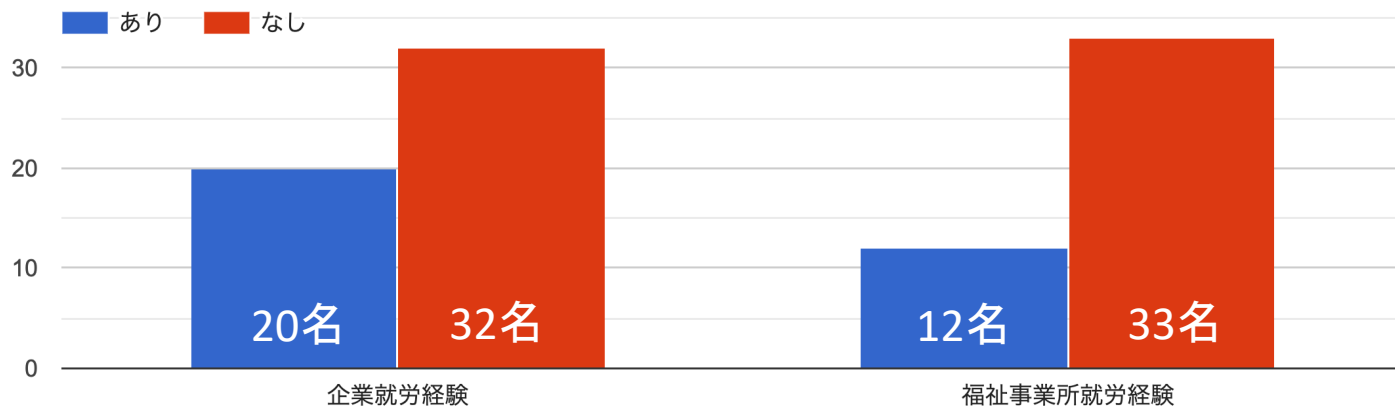
アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所 参加者様アンケート結果（有効回答数：59名）

< 就労経験の有無 >

- 企業への就労経験がある方は約3割、福祉事業所での就労(A型事業所通所) 経験がある方は2割
- 障害者が社会に出て学ぶ・働くといった経験や機会が少ないことがわかる
- 一度参加して社会に出た方が諸般の事情で事業所に復帰し、このプログラムに再び参加されることもあり、いつでも戻ってこれる場所にもなっている

就労経験の有無



アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所 参加者様アンケート結果（有効回答数：52件）

< プログラムに参加した理由（自由記述で52件の回答） >

- 色々な経験を積みたい、社会経験をしたい、挑戦したいという声も多数あった
- 実際に就労を見据えて、実践の場として活用しているという声も多数あった
- プログラムへのやりがい、学んだことを普段の活動で活かしたいという声も多数あった

社会活動に参加するため

将来のため。

これから働くための準備のため

体験を通じて社会に触れるため

試しに参加してみようと思ったから

長く休んでいたの、自信をつけるため。

どんな就労なのか知りたかったから。

久しぶりに気分転換したかったため

チャレンジしたかった

経験のため

新しい作業内容だったから

就労体験をしてみたかったから。

外で働いてみたい

前回、初参加のときはアリーナで、今回はスタジアムだったので。

経験を通じて社会に触れるため。

就労に向けて体力をつけたり、自信をつけるため。

チャレンジをしてみたかったから

バスケ会場に行ってみたい。

自分を確かめる。挑戦。できることを増やす。

習慣になりつつあるので。

フロンターレに関係していたのと就労体験をして将来のイメージができると思ったから参加した。

短時間の仕事のため、時間が自分に合っていたため。仕事内容に興味があったため。

軽作業だったら、できると思ったため。

就職のため

職員に紹介されて。

座っている作業だったから。

支援員に言われたから。

アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所 参加者様のアンケート結果（有効回答数：52件）

面白くなってきたので

久方ぶりに実務をしてみたかったのと、個人的にこういった仕事もしてみたいと思ったため。

将来のため

今後の実績を積むため。

知らないことを知るため。

私がやりたい仕事だったから。

はなみずきのお仕事以外なため

参加したかったから。

ぜひ参加したい。

就労の練習

社会への参加

社会活動に参加するため。

バスケの運営のお手伝いをしたかったから。

いろんな社会を体験してみたかった。

プロレスが見たかったから。

久しぶりに就労体験したかったから。

社会体験

仕事に慣れるため

スタッフから言われたから。

所属施設で参加することになっていたため。

将来的に就労したいと考えており、その体験のために参加した。

仕事してみたいと思ったため。

将来のため

今後の実績を積むため。

知らないことを知るため。

私がやりたい仕事だったから。

はなみずきのお仕事以外なため

参加したかったから。

ぜひ参加したい。

就労の練習

社会への参加

社会活動に参加するため。

バスケの運営のお手伝いをしたかったから。

いろんな社会を体験してみたかった。

プロレスが見たかったから。

久しぶりに就労体験したかったから。

社会体験

仕事に慣れるため

スタッフから言われたから。

所属施設で参加することになっていたため。

将来的に就労したいと考えており、その体験のために参加した。

アンケート調査・検証結果①

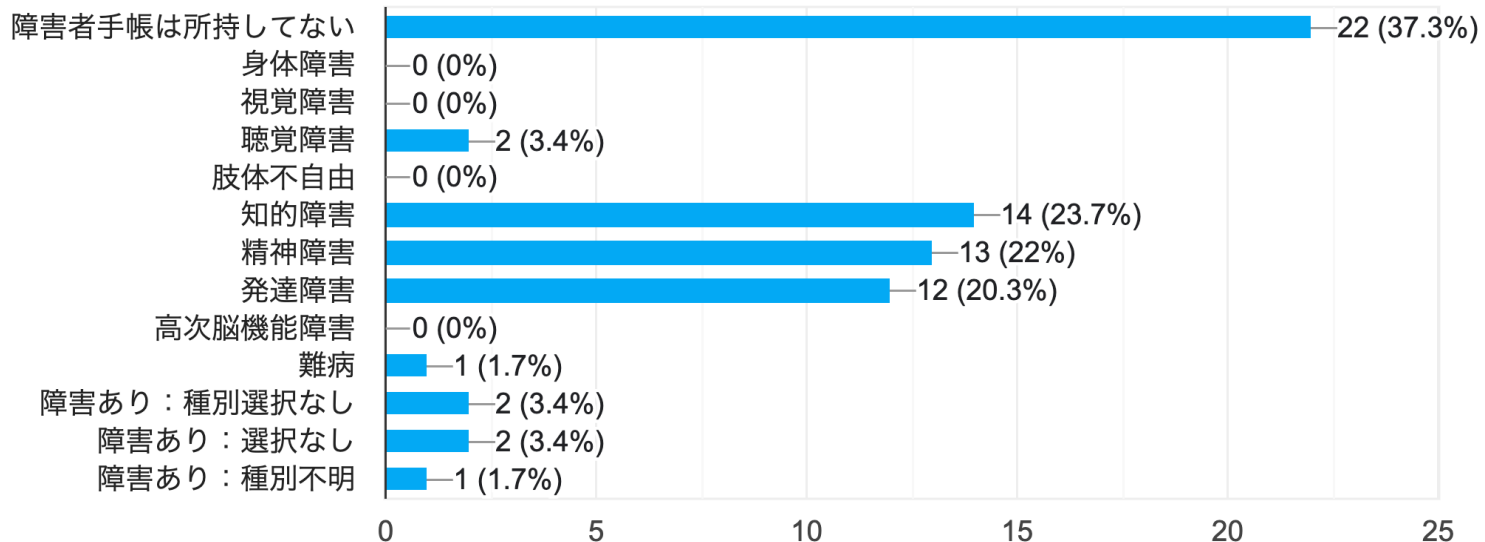
就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所 参加者様のアンケート結果（有効回答数：59名）

< 障害属性 >

- 身体・知的・精神・発達の全障害属性の方々がプログラムへ参加
- 知的・精神・発達それぞれ約2割を占めている
- 障害なしと答えた方が最多で全体の4割を占めている
ひきこもりや、手帳を保有しない方々も参加が増えている

障害の有無

59件の回答

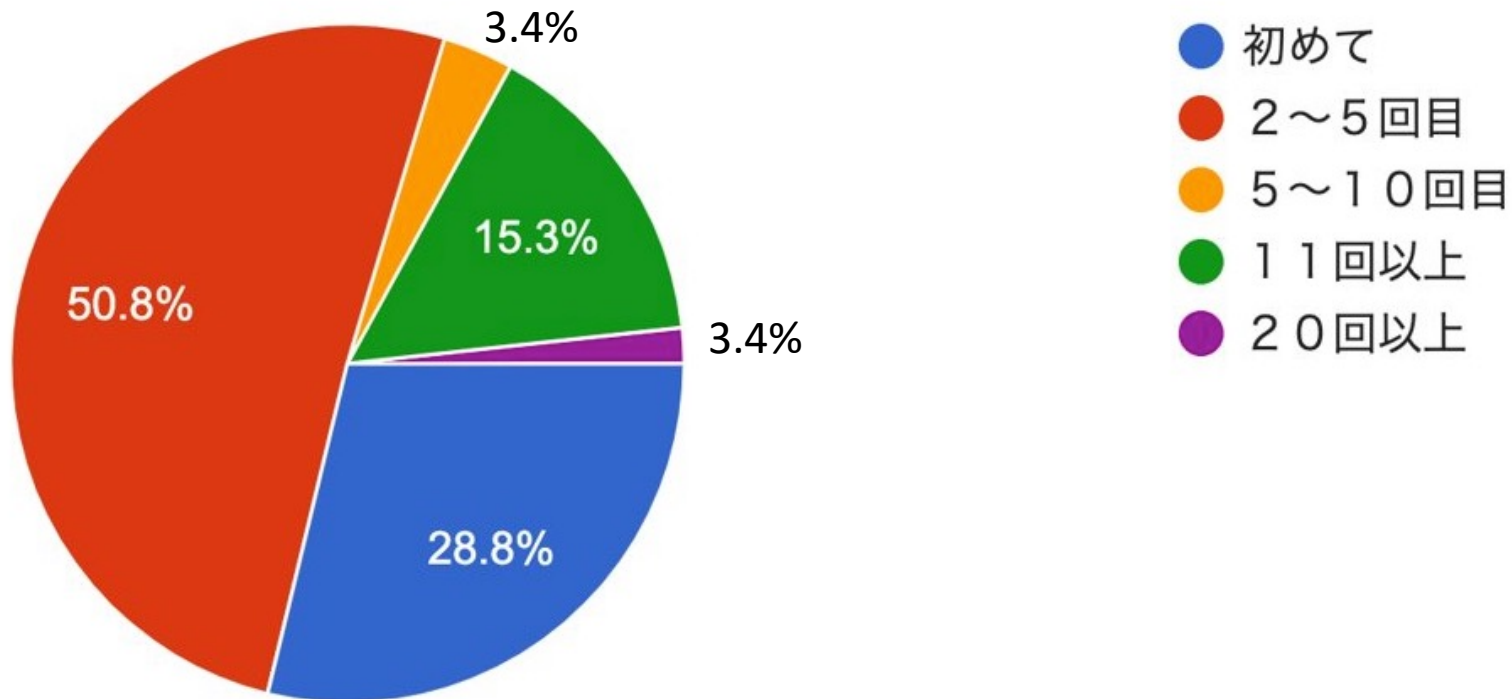


アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所 参加者様のアンケート結果（有効回答数：59名）

< 参加回数 >

- 複数回参加している方が約7割（実践事業の対象期間以前からプログラムを実施している）
- 2～5回目の参加者が最も多いことから、初めて参加された方が継続して参加していることがわかる
- 10回以上参加している方も2割近くおり、
前項の回答からもプログラム内容にやりがいを感じている方が多いことがわかる



アンケート調査・検証結果①

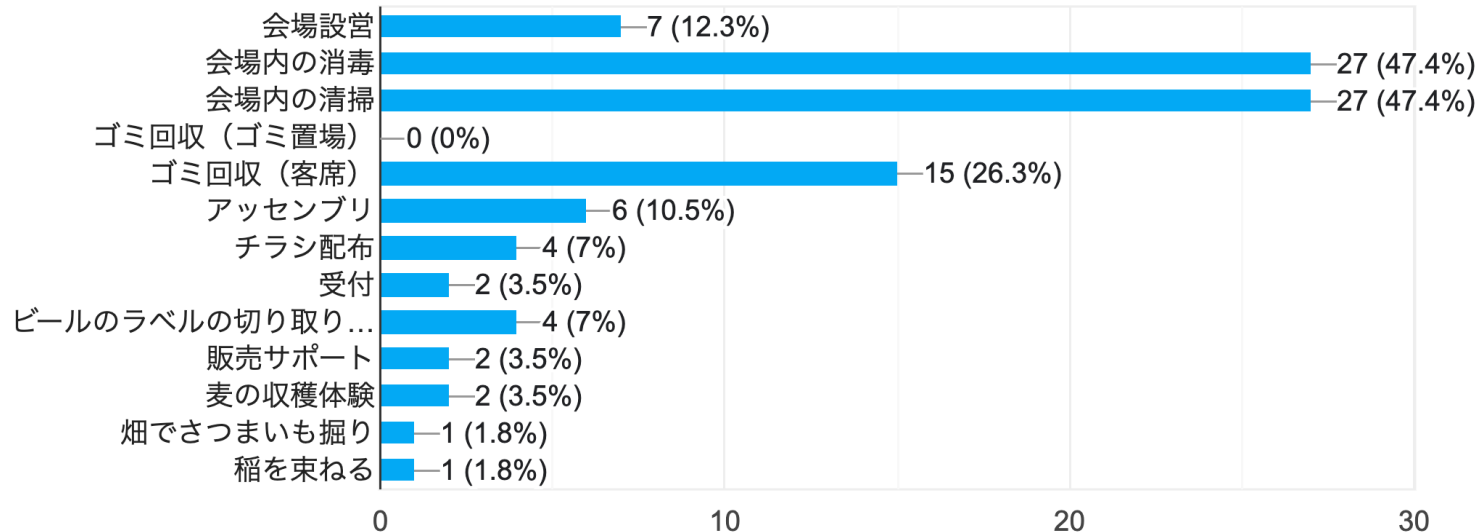
就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所の参加者様 アンケート結果（有効回答数：59名）

< 体験したプログラム（仕事）の種別 >

- プログラム（仕事）の種類は10種類以上を用意
- 新型コロナウイルス感染症対策として、不特定多数の方と接する機会の少ない会場の設営サポートや会場内の消毒、清掃などがメインになっている
しかし、客席のゴミ回収やチラシ配布などの不特定多数の方と接する機会も増えてきている

仕事内容

57件の回答



アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所 参加者様のアンケート結果（有効回答数：56名）

< プログラム参加前に気をつけたこと >

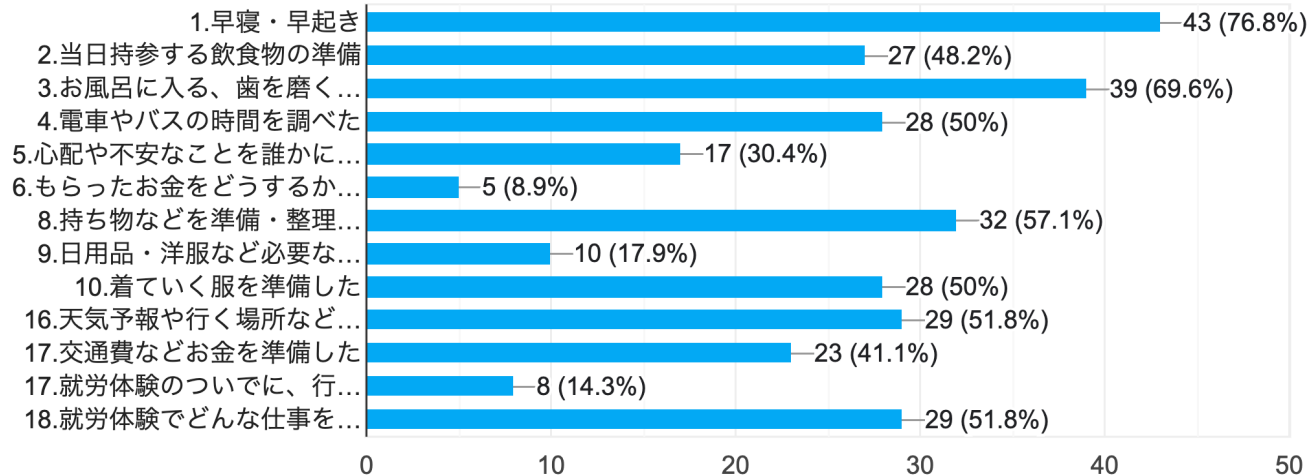
■ 約4割以上の回答を得られた項目の該当モジュールは以下の通り

- ・ 生活の基礎をつくる（モジュール1.健康管理、モジュール3.セルフケア）
- ・ 自分の生活をつくる（モジュール8.そうじ・整理）
- ・ 社会参加する（モジュール18.働く）

■ 事前には、早寝早起・準備・身だしなみを整えるなど「生活の基礎をつくる」「自分の生活をつくる」部分、想像して考えるなど「社会参加する」部分における学びがあることがわかった

就労体験前日に気をつけたこと

56件の回答

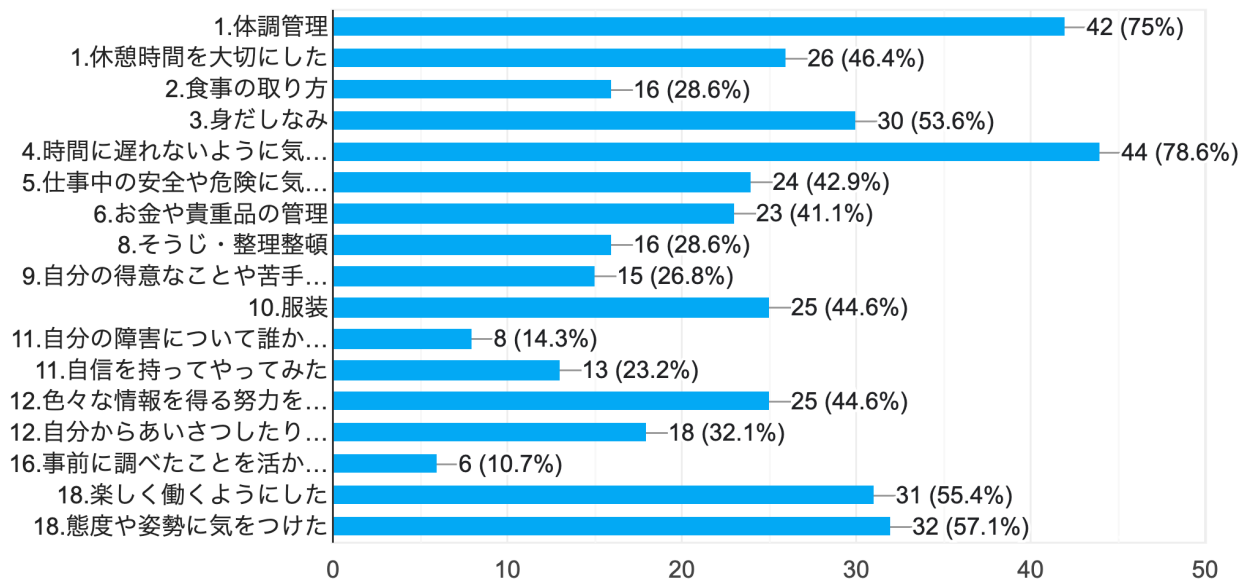


< プログラム参加当日に気をつけたこと >

- 約4割以上の回答を得られた項目の該当モジュールは以下の通り
 - ・生活の基礎をつくる（モジュール1.健康管理、モジュール4.時間管理、モジュール5.安全・危機管理）
 - ・社会参加する（モジュール18.働く）
- 当日は、体調管理・時間管理などの「生活の基礎をつくる」部分、
楽しく働く・態度や姿勢に気をつけるなど「社会参加する」部分における学びがあることがわかった

就労体験当日に気をつけたこと

56件の回答



< プログラム参加後に気をつけたこと >

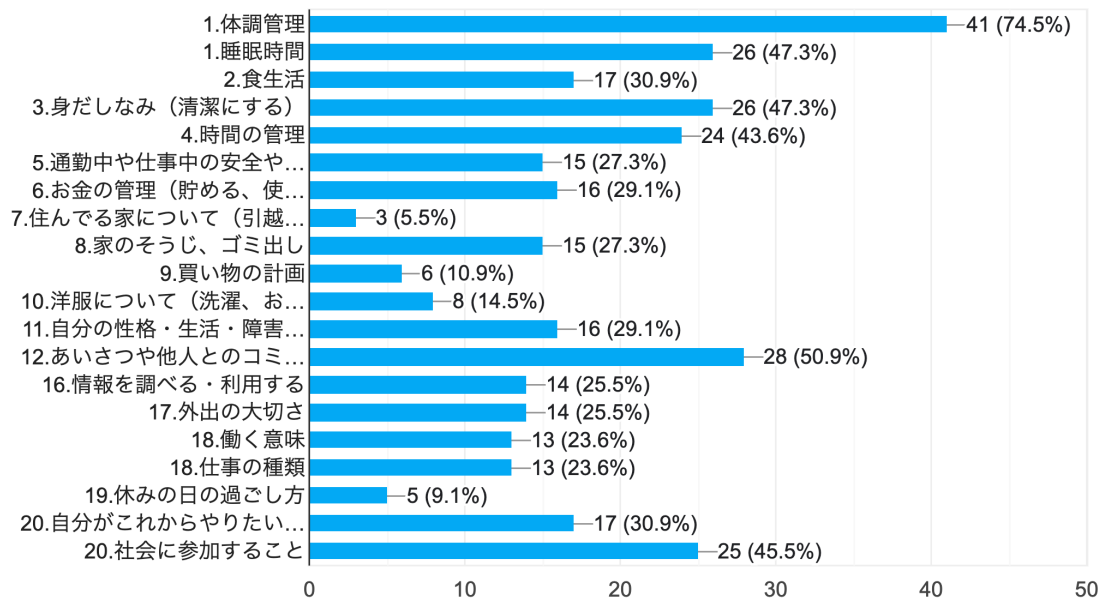
■ 約4割以上の回答を得られた項目の該当モジュールは以下の通り

- ・生活の基礎をつくる（モジュール1.健康管理）
- ・自分らしく生きる（モジュール12.コミュニケーションと人間関係）
- ・社会参加する（モジュール20.社会参加）

■ 参加後は、体調・時間管理などの「生活の基礎をつくる」部分、
コミュニケーションなどの「自分らしく生きる」部分、
社会に参加することを考える「社会参加する」部分における学びがあることがわかった

就労体験後に気をつけるようになったこと

55件の回答



アンケート調査・検証結果①

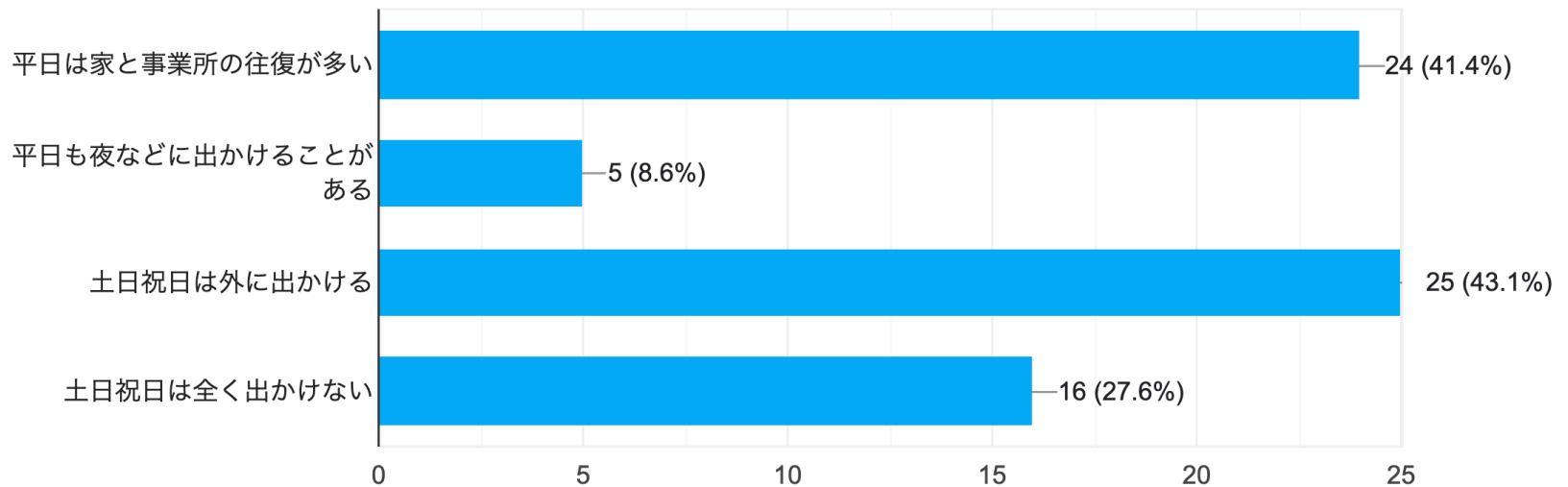
就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所 参加者様のアンケート結果（有効回答数：58名）

< 普段の生活について >

- 平日は家と事業所の往復が多いという方が約6割、休日に出かける方は4割
- 土日は全く出かけないという方も3割いることから余暇を楽しむ余裕がない

外出頻度

58件の回答



アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所 参加者様のアンケート結果（有効回答数：46件）

< プログラムに参加して学んだこと（自由記述で46件の回答） >

- 単純作業も多いことから、プログラムを通して自分自身や仕事の仕方に向き合っている方が多い
また、単純作業は集中力を生み出すことにもつながっている
- 大勢の人の中で働くことで、自分の周りのコミュニティ外の人や生活のことを考える想像力が育まれている
- 自分の生活に密着していること（消毒作業など）を仕事として行うことで、目の前にいない相手のことも思いやる気持ちが育まれている
- 普段と違う環境下で、普段は接する機会がない方々と接することが、これらの学びを生み出している

外出の大切さ。

挨拶の大切さ

時間配分をきちんと考えること。休憩をきちんと考えること。

社会のコミュニティが円滑になるようにすることの大切さ。

あいさつなどの最低限のマナー

人とのコミュニケーション。

どんな作業なのか知ることができた。

一般の人が入場できない箇所のそうじをしたことが良かった。

テキパキ動くこと。

あいさつの大切さ

声を出す難しさ

集中力に気をつけなければならないこと。

色々体験したこと。

決められたことをきちんと行うこと。

畑仕事を今までしたことがなかったので為になった。

いい経験になった。

分からなかったら何でも聞くふりをしない。

たくさんの方が集まり、働いていることの楽しさに触れることができました。

コミュニケーションの難しさ。

コミュニケーションの取り方を学んだ。

人の話を聞く。

感染予防。消毒の大切さがわかった。

助け合いながら、声をかけ合いながら。

コミュニケーション。清掃の大変さ、ゴミ回収の配慮。あいさつ。報連相をたくさんする。

アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所 参加者様のアンケート結果（有効回答数：46件）

仕事の段取りが整っており、とても働きやすかった。

コミュニケーションが難しかった。

体調管理をすること

外出の大切さ

声かけとコミュニケーション

積極的に率先して取り組むことができた。効率の良いやり方を考えられた。

気をつけることを考えた

サッカー業界に自分の体を使って貢献できてよかった。

拭き掃除が大変でした。時間がかかったけど頑張りました。

積極的に仕事に取り組めた。

はじめてなので不安だった。

スタッフとしての心がけを学んだ。お客さんが気持ちよくなるように出迎えること

コミュニケーションの大切さ（挨拶、声かけ）

椅子のシールはりを覚えた。

プロレスを見ること、椅子を並べること

初めてのかたとのコミュニケーションの大切さ

ゴミ回収の難しさ

サポートがあれば最後まで仕事ができること。

小さなことでも人が必要であること。

周りの方とのコミュニケーションの大切さ、時間配分の大切さを学んだ。

スタッフとしての心がけを学んだ。お客さんが気持ちよくなるように出迎えること

コミュニケーションの大切さ（挨拶、声かけ）

椅子のシールはりを覚えた。

プロレスを見ること、椅子を並べること

初めてのかたとのコミュニケーションの大切さ

ゴミ回収の難しさ

サポートがあれば最後まで仕事ができること。

小さなことでも人が必要であること。

周りの方とのコミュニケーションの大切さ、時間配分の大切さを学んだ。

アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所 参加者様のアンケート結果（有効回答数：41件）

< プログラムに参加して、自分の中で変わったこと、気づいたこと（自由記述で41件の回答） >

- 体調管理、コミュニケーション、外に出る、働くことの大切さに気がついた方が多い
- いつもと違うことにチャレンジすること、責任感を持って仕事に取り組むことで、自己肯定感につながっていると考えられる
- プログラムに継続して参加することで、自分なりのコミュニケーションの取り方を模索する機会となっている
- 「気がつく」「考える」機会となり、能動的な学びや社会参加に向けた具体的な行動に結びついていることがわかった

もう少しコミュニケーションをとるようにする。

外に出るようになった。

服装などを気にかけることが増えました。

何かすることがあること。

どんな小さなこと（仕事、作業）も大切なんだと感じた。

裏方の仕事が自分には合っているかなと思った。

時間を守る。

多少声が出るようになった

集中してやること。

きちんと作業できたこと。

忘れ物に気をつける。

今のところわからない。

目的意識の共有。

社会と自分がより近いものとして考えることが少しだけできるようになりました。

自分からあいさつができていない。

メモをもっと取りたかった。

人見知り。声が小さい。

スピーディーに丁寧にを心がけた。

体調管理を気をつけるようになった。

好きなものを通して働くと気持ち、テンションが上がる。

短時間で終わるように工夫をした。

休憩の取り方を考えた方がいいと思った。

雨の日でも動けたこと

前より声が出るようになった

アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所 参加者様のアンケート結果（有効回答数：41名）

周りとのコミュニケーションや適宜指示を仰ぐようにしていきたい。

まだわからない。

発信がすんなり出てきた。

他社の方々と一緒に仕事をして、軽作業のスピードも大切だと思った。

協力してもらいながら、椅子の拭き掃除を頑張りました。

いろんなスタッフとお話しできた。

いろいろな仕事があること

いろんな仕事があること

声が出しやすくなった

発信力が高まった（パンフレットをお渡しするときに積極的に挨拶、声掛けができた）

周りを見てきちんと行動できた。

音がうるさく、声が聞こえにくかった。

程よい緊張感があった。

ゴミ回収はもっと早めにした方がいいと思った

仕事に対して前向きになった。

チームワークが大切であること。

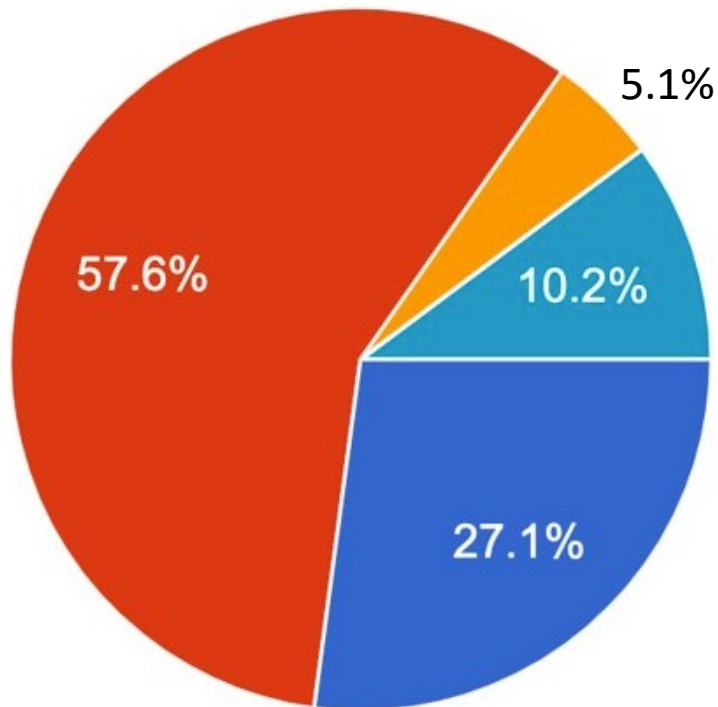
就労についてや、コミュニケーションについて考える機会が増えた。

アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所 参加者様のアンケート結果（有効回答数：59名）

< プログラムを通じて学んだことはこれからの生活や社会に出るときに役立つと思うか >

- そう思うという方が9割
- どちらでもない・わからないという方が1割未満
- プログラムに参加することで、多くの方が学びや気づきを得ている



- とてもそう思う
- そう思う
- どちらでもない
- あまり思わない
- まったく思わない
- わからない

アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所 参加者様のアンケート結果（有効回答数：18件）

< 全項目の理由、その他感想など（自由記述で18件の回答） >

- プログラムの内容（仕事）が大変だったが、楽しかった・また参加したいと答えた方が多い
- 「〇〇したい」という、ポジティブなモチベーションへと繋がっていることがわかる
- 非日常的な体験を通して、様々な角度から、社会に参加すること、人と関わることについて考える機会となっている

いつも貴重な経験をさせていただきありがとうございます。
初めての参加ですので、より機会を増やしながら考えてみたいと思います。
私たちが消毒した椅子や机で川崎フロンターレを応援することを考えると嬉しくなった。
試合前の会場には入れてどういうことをやるか分かった。
わからないところは色々考えればわかるかもしれない。いい経験になったので。
貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。
参加できてよかった。はじめしゃちょーに会えたから。
椅子拭きが楽しかった。
はじめしゃちょーに会えてビックリした。観客席とコートが近いなと思いました。
耳が聞こえないので、マスクはわかりません。
いい経験になりました。
サッカ業界で働いている人、ボランティアの人たちと知ることができた。

初めての体験でしたが、自分に合う仕事を見つけていきたい。
選手やお客様が喜んで欲しい。
自分で学んだことが普通にできた
これからも就労体験していきたい。
達成感がある。
良い経験になりました。ありがとうございました。

アンケート調査・検証結果②

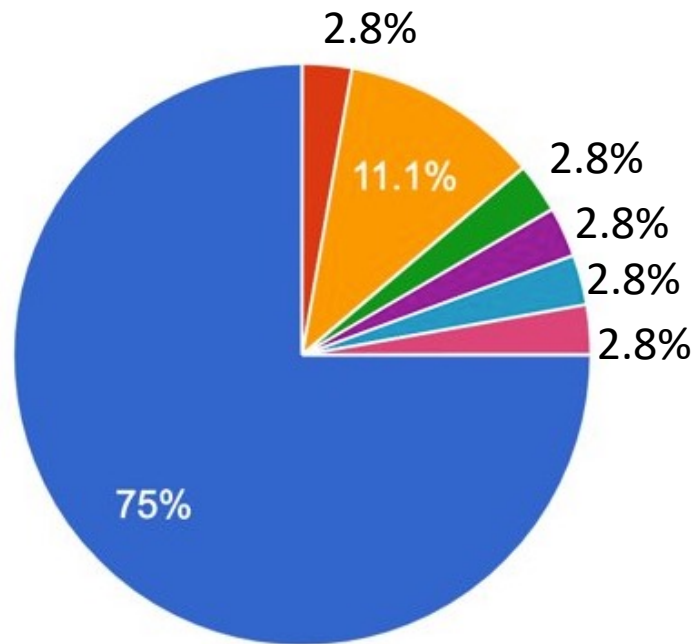
プログラムに同行・見学参加した川崎市内の福祉事業所
支援員様のアンケート結果（有効回答数：38名）

アンケート調査・検証結果②

プログラムに同行・見学参加した福祉事業所 支援員様のアンケート結果（有効回答数：38名）

< 参加した利用者様の状態 >

- 「社会にでていくきっかけづくり」という、社会参加の第1歩目の状態の方が約割7を占める
- 当プログラムが社会参加や外出の機会としてご活用いただけていることがわかる



- 社会に出て行くきっかけを作っているところ
- 企業就労に向けて事業所に通い始めたところ
- 企業就労を具体的に目指して活動しているところ
- 自立訓練にて、人付き合いと自己理解...
- 施設以外での仕事を知ってほしい
- 社会との関わりや経験を積んでほしい
- 無記入

アンケート調査・検証結果②

プログラムに同行・見学参加した福祉事業所 支援員様のアンケート結果（有効回答数：34件）

< プログラムに参加した理由・目的（自由記述で34件の回答） >

- 働くこと・他者と関わること・社会というものを学ぶ場として活用されている
- アセスメントや利用者様の強みを見つける場としても活用されている
- 支援者様のご意見から、特別支援学校卒業後から一般就労までの間に溝があり、事業所内でも社会経験を積むような機会を創出できていないことが推測される

就労希望でご相談いただいているため

対面での緊張があるため、人に慣れてほしい

ひきこもりから次の一步を踏み出す準備、練習

就労経験がほぼない方なので、社会参加と指示理解のアセスメントとして。

在宅（未就労）期間が長いので、外に出て活動を始めるきっかけづくりのため

本人に働いてみたいという動機があったから

外の世界に慣れていただくことを目的にしています。

販売業務ができるとのことで興味を持たれていたため

恒例になっていて、利用者に喜ばれるから

退職してから期間が空いてしまい、課題の対人、指示理解のきっかけづくりのため。

ご本人よりA型利用の希望が聞かれ始め、実習や見学など体験の機会を持ちたいと思ったため。

今後の就職活動に向けての第一歩として

対人スキルの確認と指示理解の確認のためです。

社会に慣れてもらうため。就労の経験を積んでもらうため。

社会経験が少ないため、働くイメージをつけてほしいため。

初めて経験する仕事に対して、施設外のスタッフの指示で動ける（理解できる）かどうか。色々な仕事の経験。

社会とのつながりをつくるため。

現実検討の機会

色々な経験を積んでほしく、成功体験の一つとして体験してほしいため

生活サイクルを自己コントロールできることを自身で体験し、自信をつけてほしい。

他者との関わり方のアセスメント

働く、お金をもらうとはどういうことなのか、どれだけ大変なのか社会を知ってもらうため

地域・社会への貢献、参加

社会参加により、外の世界に慣れてもらうため。

社会とつながるための第1歩

アンケート調査・検証結果②

プログラムに同行・見学参加した福祉事業所 支援員様のアンケート結果（有効回答数：34件）

就労など将来のイメージが付きづらい方。興味のあることから“働く”について考えるいい機会になると思ったため。

就労準備性を高める為。

活動性の向上

社会とのつながりを作る為、慣れる為

対人コミュニケーションと指示理解

働くことを実感し、就労するイメージを得ることができた。

施設以外での仕事や、職員との協力、指示を聞くことができるのか、普段通りに仕事ができるのか。

社会との関わりや経験を積んで欲しいため。

センターに最近登録されたので、アセスメントのため。

アンケート調査・検証結果②

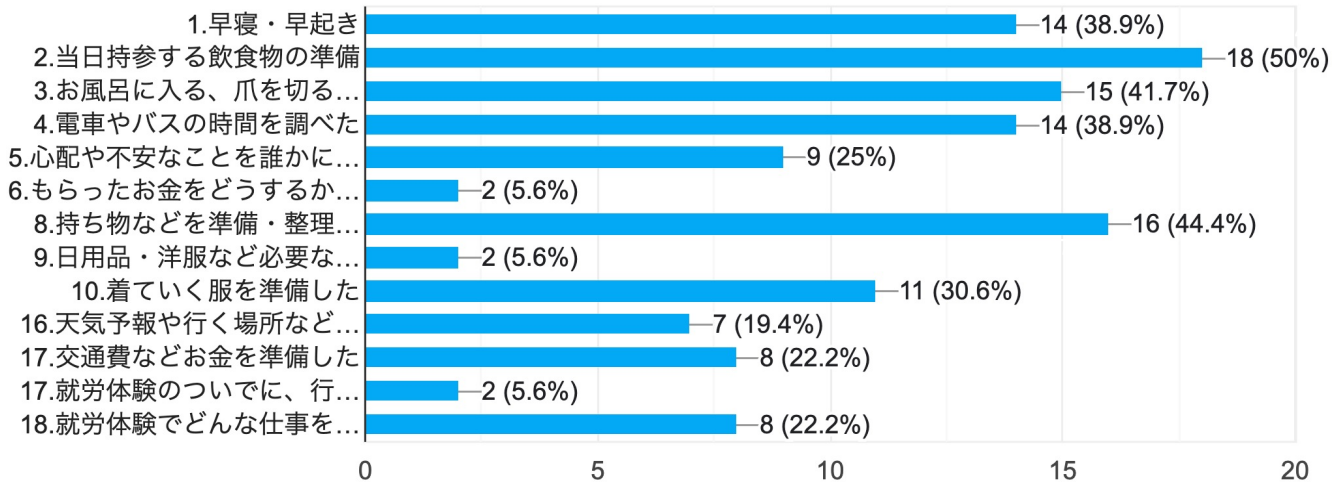
プログラムに同行・見学参加した福祉事業所 支援員様のアンケート結果（有効回答数：36名）

< 支援者様からみて利用者様がプログラム参加前に気をつけていたこと >

- 約4割以上の回答を得られた項目の該当モジュールは以下の通り
 - ・ 生活の基礎をつくる（モジュール1.健康管理、モジュール4.時間管理）
 - ・ 自分の生活をつくる（モジュール8.そうじ・整理）
- 事前には、早寝早起・時間管理など「生活の基礎をつくる」部分、持ち物や洋服の準備など「自分の生活をつくる」部分における学びがあることがわかった
- 「社会参加する」部分において、参加者アンケートとは異なる結果が見られた

前日気をつけていたこと

36件の回答



アンケート調査・検証結果②

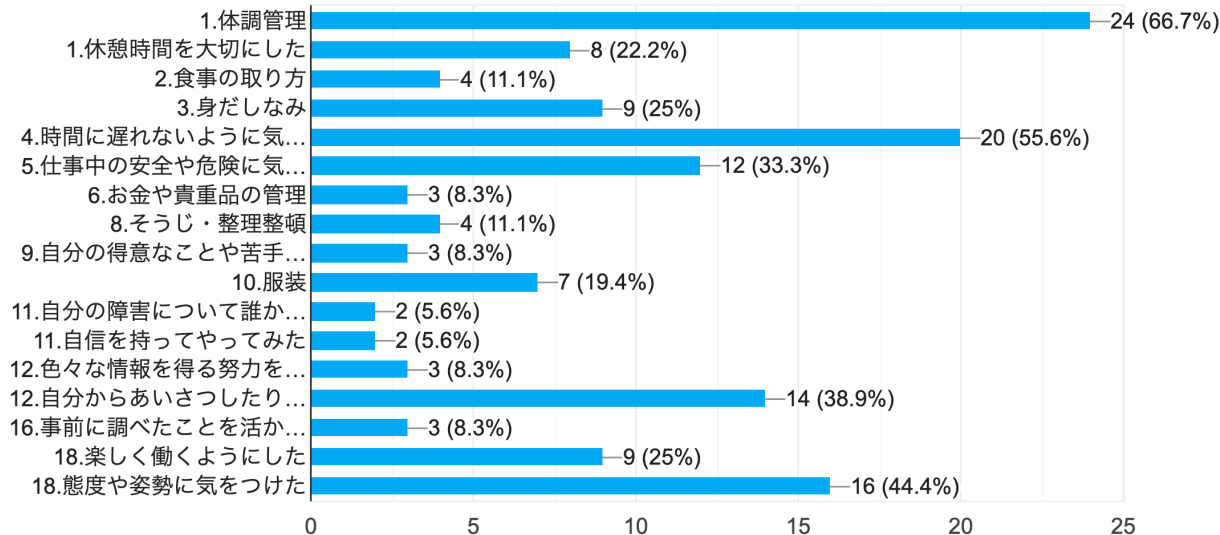
プログラムに同行・見学参加した福祉事業所 支援員様のアンケート結果（有効回答数：36名）

< 支援者様からみて利用者様がプログラム参加当日に気をつけていたこと >

- 約4割以上の回答を得られた項目の該当モジュールは以下の通り
 - ・生活の基礎をつくる（モジュール1.健康管理、モジュール3.セルフケア、モジュール4.時間管理）
 - ・自分らしく生きる（モジュール12.コミュニケーションと人間関係）
 - ・社会参加する（モジュール18.働く）
- 当日は、体調管理・身だしなみ・時間管理などの「生活の基礎をつくる」部分、コミュニケーションなどの「自分らしく生きる」部分、態度や姿勢に気をつけるなど「社会参加する」部分における学びがあることがわかった
- 多くの項目において、参加者アンケートとは異なる結果が見られた（参加者の方がポイントが高い）

当日気をつけていたこと

36件の回答



アンケート調査・検証結果②

プログラムに同行・見学参加した福祉事業所 支援員様のアンケート結果（有効回答数：34名）

< 支援者様からみて利用者様がプログラム参加後に気をつけていたこと >

■ 約4以上の回答を得られた項目の該当モジュールは以下の通り

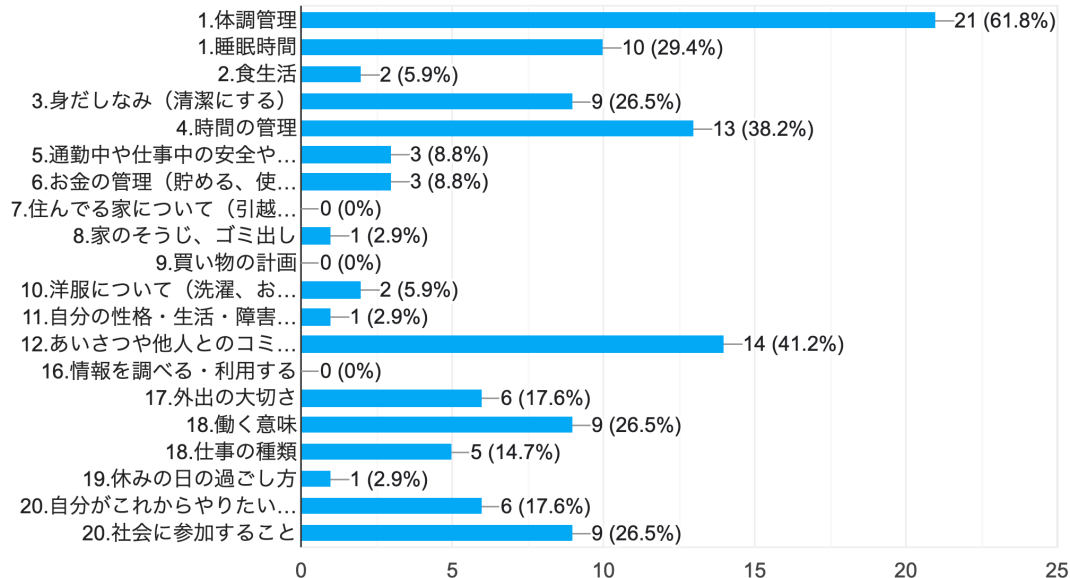
- ・生活の基礎をつくる（モジュール1.健康管理）
- ・自分らしく生きる（モジュール12.コミュニケーションと人間関係）
- ・社会参加する（モジュール20.社会参加）

■ 参加後は、体調管理などの「生活の基礎をつくる」部分、コミュニケーションなどの「自分らしく生きる」の部分、社会に参加することなどの「社会参加する」部分における学びがあることがわかった

■ 多くの項目において、参加者アンケートと異なる結果が見られた

就労体験後気をつけるようになったこと

34件の回答



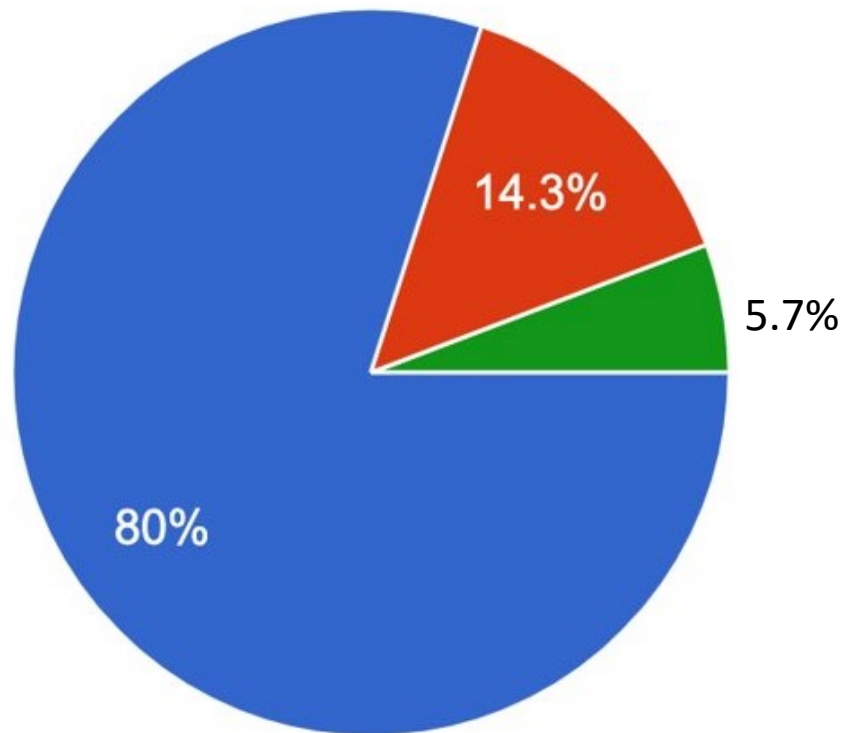
アンケート調査・検証結果②

プログラムに同行・見学参加した福祉事業所 支援員様のアンケート結果（有効回答数：35名）

< プログラム終了後に利用者様と振り返りの場や、感想や思いなどを共有する場を設けているか >

■ 毎回設けている方が8割

■ 利用者様に合わせて、様々な形で感想や思いを共有していることがわかった



- 毎回設けている
- たまに設けている
- 設けていない
- 体験中に共有している

アンケート調査・検証結果②

プログラムに同行・見学参加した福祉事業所 支援員様のアンケート結果（有効回答数：38件）

< プログラムに参加して、利用者様が学んだこと（自由記述で38件の回答） >

- 社会に出ること、働くこと、チームワーク、協調性、コミュニケーションに関する学びがあった
- 普段接しない人と関わることが刺激になり、利用者様の新しい強みの発見や、能力の向上につながっている
- プログラム中に与えられた仕事をやり遂げることで「達成感」を得ることができ、それが利用者様の自信や満足度につながっている
- 支援者様から見ても、働くという経験を通じて多くの人と関わるこのプログラムが、様々な学びを生んでいることがわかる

チームワーク、体を動かす働き方

就労に対する意欲を感じ取れた。

以前していた仕事との比較

初対面の方との共同作業

初対面の人とのコミュニケーション。未体験の作業への取り組み、積極性。

就労体験に参加できたことで、朝起きて2度寝をせずに事業所に通うことができ始めている。拭き掃除が丁寧にできていたことで他の施設外実習にも参加できることを伝え、本人のモチベーションを上げ「休まず来る」きっかけになればと思います。

面接の場で会うイメージと体験の場では印象が違った。本人の困り感が働く中で現れていたように思えたので、本人もそこに気づけたと思う。

ひきこもりという立場、フィルターなしでの人との接触体験

初めての経験ができたことで、向き・不向きを知ることができたと思います。また、挑戦する場があることが重要だと支援者としても感じました。

物品の販売は初めてだったので、各々に個別の気づきがあったと思う。晴天、雨天でプログラムが全く違う中、前日に伝えていたこともあるが、対応できたこと。

慣れない環境で普段できている力を発揮することの難しさ。

道具の扱いや継続的に実施することでできることが増えたり、働くことへの関心、自信が持てたように感じました。

知らない人との関わり、慣れない場所での作業で、働くことへの緊張感を学べたと思います。

知らない人でもしっかり声かけしてたこと

周りとのコミュニケーションの取り方。助け合いながら作業をできて自分がどれだけ動けるかの確認、及び、人が多い中で大丈夫なのか確認できたと思います。

体力と他の参加者の方へのコミュニケーション。

施設内ほど手厚いサポートがないので、自分からメモをとり、仕事を把握しなければならないこと、作業終了報告、次の作業の指示を仰ぐ必要があることを身を持って学べたと思います。

アンケート調査・検証結果②

プログラムに同行・見学参加した福祉事業所 支援員様のアンケート結果（有効回答数：38件）

普段は時間で作業を区切ってしまうが、今回は決められた仕事を最後まで行うことで終了になったので、やり終えた達成感を味わえたと思います。

人との接し方、自分の働き方、体力

日常生活の範囲から離れ、一般の人がいる場所での振る舞いを自ずと考える機会。

“働く”のイメージが今までより具体的になったと感じる。あいさつなどのできている強みの部分の再確認に繋がり、また、実践でしかわからない「ペース配分の把握」や「焦ってしまう」などの課題が見つかり、自己理解が深まった。

緊張感のある中で、自分自身の体調の変化に気をつけること

当日に向けて準備することの意識が向上した。

人が多い中で作業に慣れる 人とのコミュニケーション

達成感を目や触覚で感じることができた。

働くことのイメージを持つことができた。

時間をかけても最後までやり通すことができたこと

他人と働くことで、協力することを意識できたのではないか。

他の参加者の方と協力すること

人混みの中でも大丈夫になってきている。声を出すことを意識できていた。

働いている自分のイメージがついた。挨拶の大切さを学ぶきっかけとなった。

近くで音楽が流れていたり、音が聞きにくい時でも、普段と変わらず仕事ができる。

人混みの中での過ごし方、対応の仕方

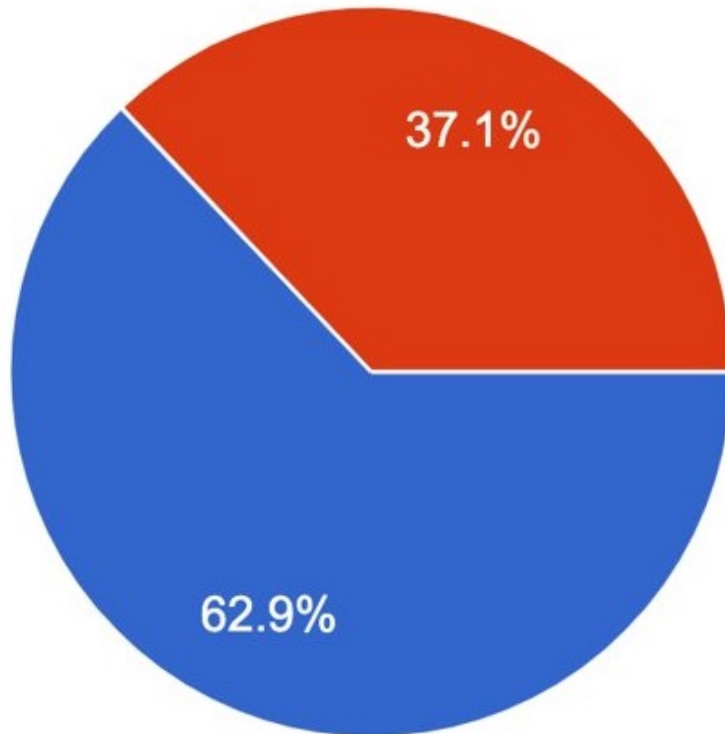
初めての経験だったので、予想よりも強い緊張が見られると予想していましたが、当日は落ち着いて仕事に取り組みていました。個々の課題が明確になるいい機会でした。

アンケート調査・検証結果②

プログラムに同行・見学参加した福祉事業所 支援員様のアンケート結果（有効回答数：38名）

＜プログラムを通じて利用者様が学んだことはこれからの生活や社会に出るときに
役立つと思うか＞

- とてもそう思う・そう思うという方が10割
- プログラムに参加することが多くの利用者様の学びや気づきにつながっている



- とてもそう思う
- そう思う
- どちらでもない
- あまり思わない
- 全く思わない
- わからない

アンケート調査・検証結果②

プログラムに同行・見学参加した福祉事業所 支援員様のアンケート結果（有効回答数：28件）

< 前項目の理由、その他、感想等（自由記述で29件の回答） >

- 当プログラムへの評価や期待が高い
- 支援者様側からはアセスメントの場として有用な機会であることがわかる
- プログラム終了後、事業所でも利用者様と感想や想いを共有できるきっかけになっている
- コロナ禍が長引き、運営体制を模索する中で、プログラムの運営の細かい部分についてのご提案を多くいただいたので、次年度の更なるプログラム内容の向上につなげていく

休憩など配慮していただきありがとうございました。

当事者の方とコミュニケーションをとりながら、分かち合えてよかったです。

湿度が高く、蒸し暑い天候でしたが、適宜休憩を取っていただいたので、最後まで作業することができました。

丁寧なご指導をいただきありがとうございました。

拭き掃除に疑問。一般的に濡れた雑巾で消毒は行わないのが基本だと認識していますが…。作業だけではなく、正しい知識も伝えて行くのも就労体験なのでは？と感じました。

人と接する機会がないひきこもりの人が対人交流の場面を設けてもらうことに大きな意味があると思う。

販売の手伝いは、声を出したり、対人スキルが必要になるので、とても良い経験になったと思います。

フロンターレやブレイブサンダース等とは違い、マンツーマンで指導していただけることもあり、本人が安心感を得ながら就労体験に参加できるように感じました。

大変お世話になり、ありがとうございました。また、ぜひ参加させてください。

体験者より年下の方に作業を教わったり、フランクに接してくれる先生とのコミュニケーションは、今後、就職した際や他の就労体験でも役立つことかと思えます。

鎌で麦を狩る作業で、どう鎌を持つか、どんな姿勢か、麦をどう置くか、色々考えることがあり、勉強になりよかったです。

暑い中、お疲れ様でした。この機会を設けていただき大変ありがたいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

本日は真夏日で熱中症を心配しましたが、無事終わってよかったです。適宜休憩をしていただきありがとうございました。

酷暑の中での作業だったため、かなり体力的につらかったと思います。

会場（特に2階スタンド席）がとても暑かったので、募集の際に暑いことが文言にあると、服装の案内がしやすかったかなと感じました。

暑さの中での仕事で皆かなり汗をかいたので、着替えの必要があること等、事前にご連絡いただけるとありがたかったです。

不満は特にありません。いつもお世話になり、大変ありがたく思っております。

単調な仕事をメリハリある仕事、どちらが向いているのか知りたいので、その機会が欲しい。

アンケート調査・検証結果②

プログラムに同行・見学参加した福祉事業所 支援員様のアンケート結果（有効回答数：28件）

大変貴重な体験をさせていただきありがとうございました。機会があればまたぜひ体験に参加させていただければと思います。

出来れば3時間（2000円）にさせていただきたい。とても良い作業でした。ありがとうございました。

3時間をお願いします。

単なる収穫ではなく、キズになったら商品にならないといった注意力や責任感を学べたと思います。

スタッフの話や指示を聞いて、動くことができていた。他の施設の方と協力するまでのことはできず、少し残念でした。

今回の時間帯では、昼食時間が大幅に過ぎてしまうため、昼食後薬のある利用者は参加させられなかった。

日常では体験できないことができてよかった。

満足です。ありがとうございます。

非日常の体験を通して、利用者の様子を見ることができた。

実際に働く経験をすることで、自信の獲得や難しさの実感をすることができてよかったです。また、参加を希望しているメンバーもいるので、今後の参加して行きたいです。

まとめ・考察

- コロナ禍での実施策として、参加人数・開催時間の縮小と、プログラム内容の簡素化を行ったことで、参加のハードルが低くなり、新しい事業所からの参加が増えている。
- 結果として、対人やコミュニケーションへの不安がある利用者様にとって、参加しやすい環境となっている。
また、支援者様や運営スタッフが参加者する障害当事者一人ひとりと、丁寧に向き合うことができる
というメリットも生まれている。
- 複数回参加している事業所が都度反省会を行っており、その結果、回を重ねるごとに学びが生まれ、仕事、つまりは学ぶことに対する自主性が生まれている。
- 受入先のスタッフやアルバイトの方から「ありがとう」「助かります」といった声をかけていただく機会が増えている。それにより他者承認欲求が満たされ、自己肯定感の向上につながっており、結果的に昨年と比べ、参加者からは「社会の役に立つ」という声が多くあがっている。
- 参加者と支援員様のアンケート結果には大きな差はないが、支援者様の方が数値が高い項目が多く、参加者本人が学びを得て成長していることに、周りの方が気がついていることがわかる。
- 全体的に外出することへの関心が低くなっているが、これはコロナ禍で、健康や安全に対する意識や不安が未だ継続していることが考えられる。
- コロナ禍の影響を受け、「働くことへの意識」、「社会にどう参加するか・どう関わっていくか」などへの意識が参加者、支援者様ともに昨年より高くなっている。

まとめ・考察

- 支援者様にとっては、アセスメントの場に活用いただいたり、就労支援にあたっての具体的な課題を見つけられる機会になっており、相乗効果が現れている。
- コロナ禍で活動の場所が制限されている中、就労体験が外出の機会の選択肢として求められていることがわかった。
- 普段とは違う環境・人と一緒に働くことで、関わりのない他者や社会に対して考える力、想像力が育まれている。
- 参加者にとってに「気づき」「考える」機会となっており、能動的な学びや社会参加に向けた意識の変化に結びついている。